

1-17 奥尻島の地殻上下変動

Vertical crustal movements in the Okusiri Island

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

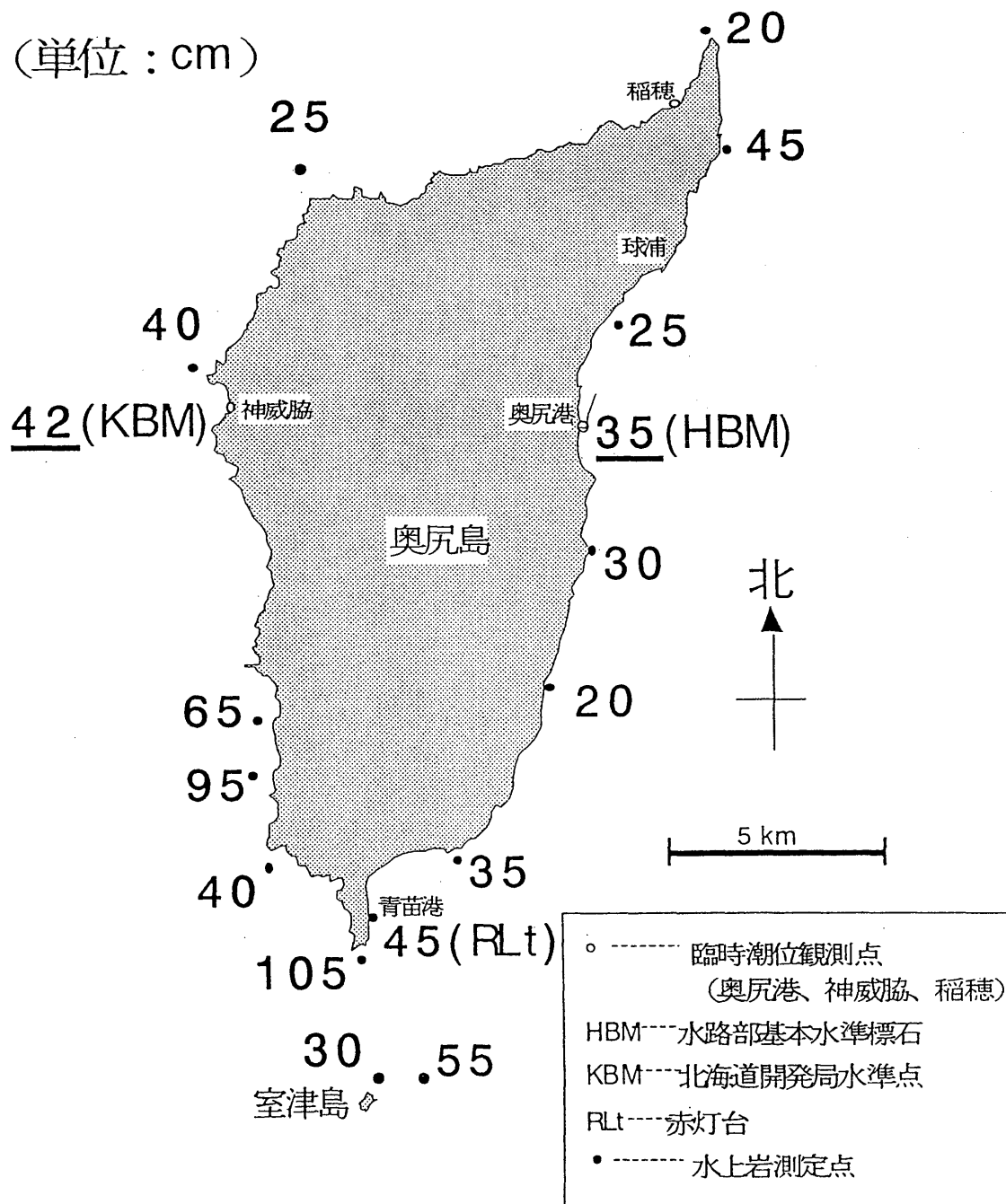
1993年7月12日に発生した北海道南西沖地震により、震源域のすぐそばにある、奥尻島は大きな地殻変動を受けた。

水路部では1978年に、「沿岸の海の基本図」作成のための水路測量として奥尻島近傍の海底地形調査を実施する際、同島東岸の奥尻港に水路部の基準点を設け、1カ月以上に渡って驗潮を行い、島周辺の40個以上の水上岩について平均海水面からの高さを算出している。

地震後の1993年9月11日～10月16日の間、奥尻島地殻上下変動を解明するため、奥尻島において長期の驗潮観測と島周辺の水上岩の高さの再調査を行い、1978年の調査結果と比較した（第1図）。この結果から以上のような事が分かった。

- (1) 島は全体として沈降している。沈降量は大きいところでおよそ1 m, 小さいところで20cm程度である。
- (2) 島の南部の方が沈降量が大きい傾向がある。
- (3) 沈降量には局所的なばらつきが見られ、島が一体となって沈降したわけではない。

水上岩測定から得られた奥尻島の沈降量 (1993年9月-1978年)



※神威脇の開発局水準点は、1981年の測量結果と比較した

第1図 北海道南西沖地震に伴う奥尻島の地殻上下変動

Fig.1 Vertical crustal movements in the Okusiri Island associated with the Hokkaido-Nansei-Oki Earthquake